
令和2年度
民生委員児童委員実務研修会
(地区民児協副会長対象)

令和2年10月26日(月) 14:00~15:30

金沢歌劇座



金沢市民生委員児童委員協議会



社会福祉法人金沢市社会福祉協議会

令和2年度 地区民児協副会長対象 民生委員児童委員実務研修会

1. 趣 旨 民生委員児童委員が、経験年数に応じて期待される役割を理解し、必要な知識や技術を身につけ、地域福祉の要として活動できるよう資質向上を図ります。

2. 日程

時 間	内 容
14:00～ (5分)	開会・オリエンテーション
14:05～ (40分)	(1) 講義「相談支援活動を進めるために ～相談支援に活かす『傾聴力』～」 講師：こころの支援員&講師 坂尻 他津子 氏
14:45～ (30分)	(2) 講義「災害時における地域連携と民生委員活動について ～金沢市災害ボランティアセンターとの連携～」 講師：金沢市社会福祉協議会 金沢ボランティアセンター 所長 宮下 吉広
15:15～ (15分)	質疑応答
15:30	閉会

講師プロフィール

坂 尻 他 津 子

こころの支援員&講師

《石川県内活動履歴》

◇相談支援

- ・個人へのアウトリーチ
- ・学校相談員(短期大学)
- ・地域保健センターでの個別相談
- ・異職種との包括相談
- ・自殺防止対策事業
- ・電話相談

◇講演・研修講師

- ・傾聴ボランティア研修
- ・傾聴研修(専門職／一般)
- ・メンタルヘルス研修 (学校、病院、行政、企業、各種団体など)
- ・教育講演
- ・コミュニケーション・接遇研修

◇その他

- ・災害被災の方への心のケア

相談支援活動を進めるために～相談支援に活かす『傾聴力』～

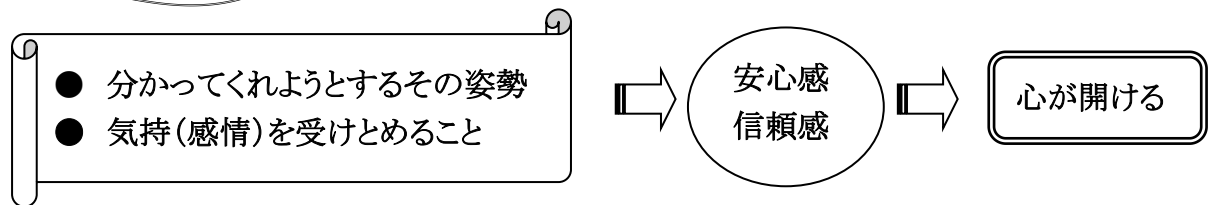
こころの支援員&講師
坂尻 他津子

傾聴の効果

❖話を聴いてもらうと

- ①気持ちを吐き出し、ほっとして気持ちが軽くなる。(カタルシス=感情浄化作用)
- ②自分の考えや気持ちに気づき、整理できる。(自己認識)
- ③役に立っている、認められている、大切にされていると感じる。(自己有用感)
- ④自分は自分のありのままがいいんだと思える。(自己肯定感)
- ⑤孤立感を軽減する。
- ⑥人の話が聴ける

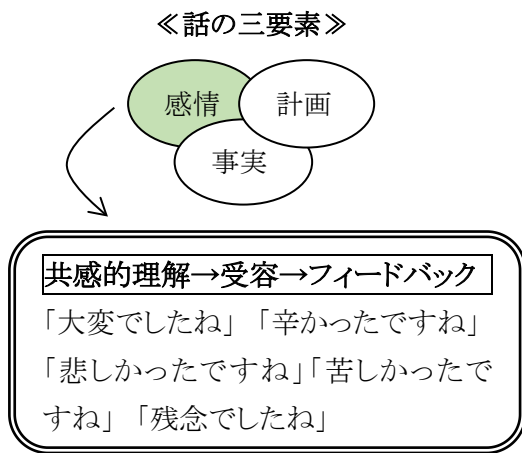
「聴く」ことの本質



傾聴のポイント

- ①心を真っ白にして相手の話を聴く。
- ②あたたかな笑顔で、話しやすい雰囲気づくりをする。
- ③話を途中で妨げずに、最後まで聴く。
- ④相手のペースを尊重する。(沈黙も)
- ⑤聴き上手は3割しか話さない。
- ⑥「聴いてますよ」の合図(うなづき、相槌、オウム返し)で、話を促進させる。

⑦話の中の気持ち(感情)に焦点をあて、共有し受けとめ、それを伝え返す

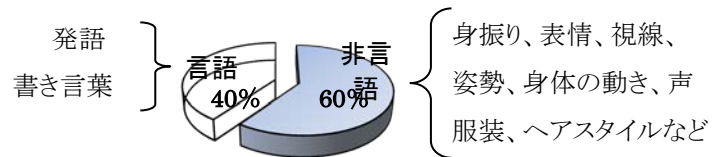


(事例) 70代女性
「10年前に夫が亡くなった時も辛かったけど・・・、友達が誘ってくれたり、自分からも公民館のサークルにも行ったりして・・・、何とかやっていたんですよ。でも、5年前腰を痛めてからはあまり出かけなくなってしまって・・・。それで、猫を飼ったんです。本当に可愛かった！なのに・・・4ヶ月前亡くなってしまって・・・。悲しくて、淋しくて・・・。これじゃいけないと思うけど・・・、何もする気が起こらないんです。」

◇事実は ◇感情は ◇計画は

- ⑧ねぎらい、いたわり、感謝の言葉を伝える
- ⑨良い悪いの判断や批評をせず、まず気持ちを受けとめる
- ⑩言語以外の非言語からも言葉にならない気持ちを受けとめる

<心のメッセージを表す手段>



⑪「聴き上手」は「ほめ上手」

ほめる という行為の基本 ⇒ 『相手の存在を認める』

- ・あいさつ → 人間関係の窓口
- ・声かけ → “いつもみていますよ”のサイン
- ・感謝の言葉「ありがとう」→ “役にたっている”ということ

☆「できたこと」や「あたりまえのこと」にも注目し、ほめる

↑
自己肯定感の促進

⑫その他

高齢者の話を聴く時の留意点

- ・視聴覚に配慮する ・人生の先輩としての敬意をはらう ・「昔語り」でいきいきとして頂く
- ・喪失体験（健康、経済、人間関係、役割）からくる老いの意識を考える
- ・長い話や、繰り返される話の時は、その時間を一緒に過ごすことを大切に
- ・「死」の話は回避しない

▼▼聴いてもらえていないと感じる場合▼▼

- ・経験談を話す ・自論を展開する ・一方的なアドバイス ・知識を披露する
- ・一般論で話す ・結論を出したがる ・対等な関係に感じない(上から目線)

【memo】

令和2年10月26日(月)
民生委員児童委員副会長研修

災害時における地域連携と民生委員活動について

～金沢市災害ボランティアセンターとの連携～

社会福祉法人 金沢市社会福祉協議会
金沢ボランティアセンター所長 宮下吉広

災害ボランティアセンター（災害VC）とは？

- 近隣住民の助け合いが災害により機能しないところをボランティアの力を借りて、復旧・復興に向けて被災者が自立・生活再建することを目指す。
- ボランティア活動としては、泥かきやガレキ撤去、清掃作業等が多いが、そればかりではない。自立・生活再建を目指して様々な支援を行う。
- 災害ボランティアセンターでは、被災者からの困りごとと個人ボランティアの活動をつなぐ他にも、他の支援者間や内部でも支援実施のため、多くの調整が行われる。

金沢災害ボランティアセンター－開設までの流れ

災 害 発 生



■金沢市災害対策本部の設置

金沢市は、災害対策本部の設置と同時に金沢災害ボランティアセンター本部を設置する。



■金沢市は金沢災害ボランティアセンター本部の設置を金沢市社会福祉協議会に通知する。



■金沢災害ボランティアセンター－現地支部開設の判断

金沢市と金沢市社会福祉協議会が協議し開設の判断・決定を行う。



「開設する場合」

■金沢災害ボランティアセンター本部の移設

金沢市は、「金沢災害ボランティアセンター本部」を金沢市松ヶ枝福祉館内に移設する。金沢市松ヶ枝福祉館が被災し使用が困難な場合は、金沢市が調整し移設場所を決定する。

「開設しない場合」

■周知・広報活動

今後の対応などについて、電話連絡やホームページ等に掲載し、関係者や市民へ周知を図る。



■金沢災害ボランティアセンター－現地支部開設準備

設置場所、運営開始日、ボランティア募集の範囲などを金沢市と金沢市社会福祉協議会が協議する。



■運営スタッフへ連絡

金沢市社会福祉協議会職員・金沢市職員・石川県社会福祉協議会職員・
石川県災害ボランティア協会など



金沢災害ボランティアセンター－
現地支部の開設準備



広報活動



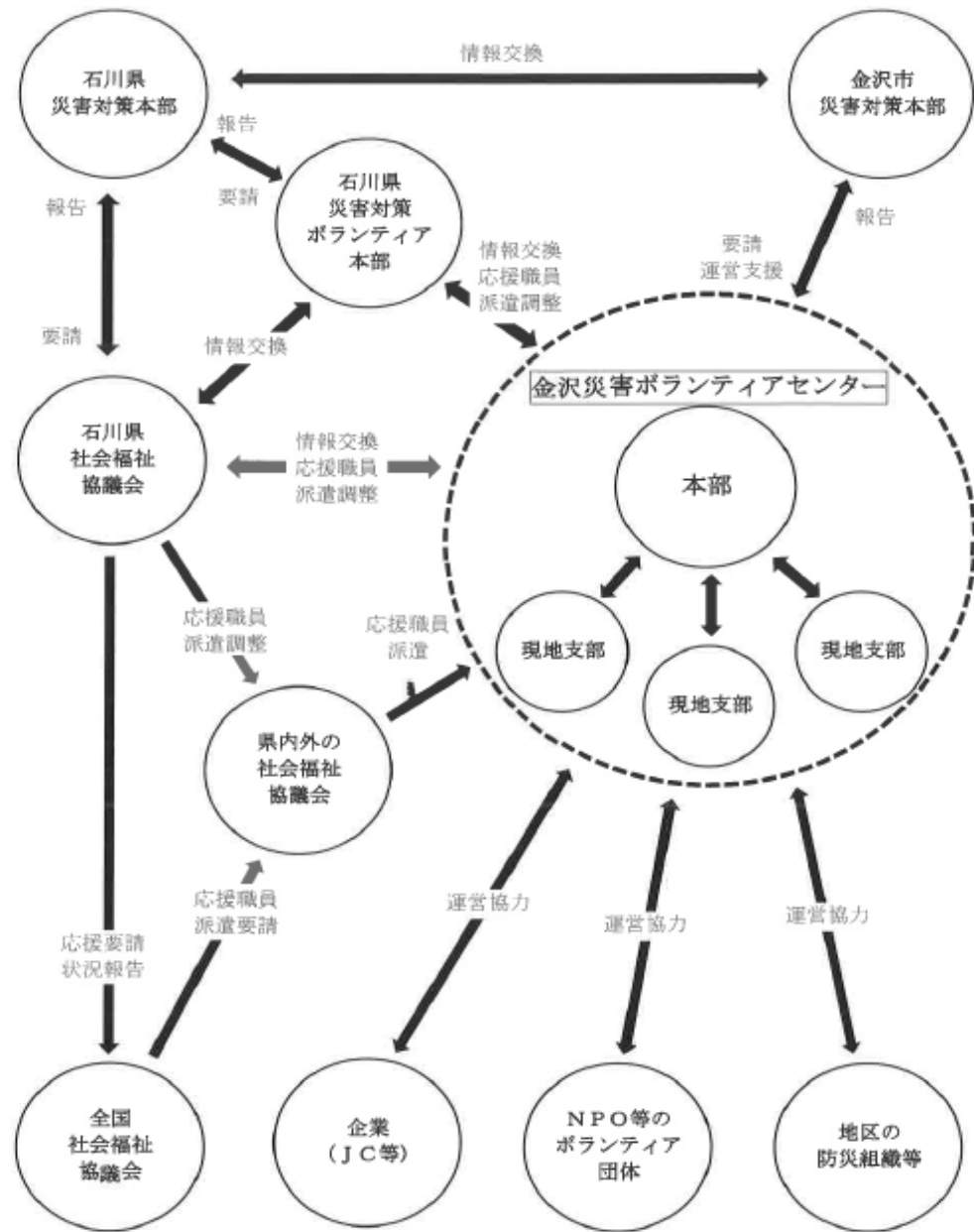
■金沢災害ボランティアセンター－現地支部の開設

設置期間は概ね2～3ヶ月間とし、縮小及び閉鎖時期について金沢市と金沢市社会福祉協議会が協議し決定する。

金沢災害ボランティアセンターの 関係団体との連携図

災害ボランティアセンターの主な機能 (期待される役割)

- 被災地、被災者のニーズ（要望）の把握。情報の発信
- 様々な支援（ボランティア）の受け入れ窓口
- ボランティアのコーディネート
- 活動の安全管理



災害ボランティアセンターの主な機能（期待される役割）

被災地,被災者のニーズ
(要望)把握。情報発信

- 被災地、被災者からの要望等(ニーズ)を把握、収集し、そのニーズに応えるための体制を整えます。
- 把握した情報をボランティア活動希望者等に周知します。

ボランティアの
コーディネート

- ボランティアを受け入れ、被災地が必要とするボランティア活動ができるようにする(マッチング)を担います。

活動の安全管理

- ボランティアが安全に活動できるよう準備し、ボランティアや被災者に対して安全衛生の注意喚起をします。

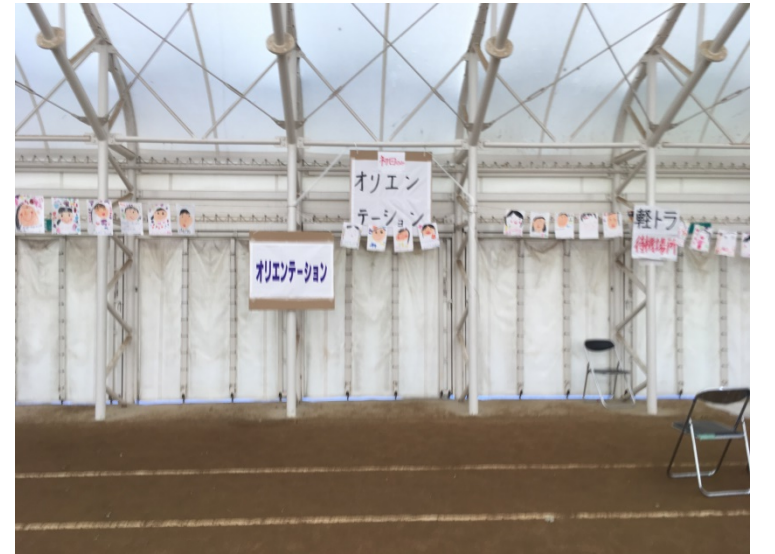
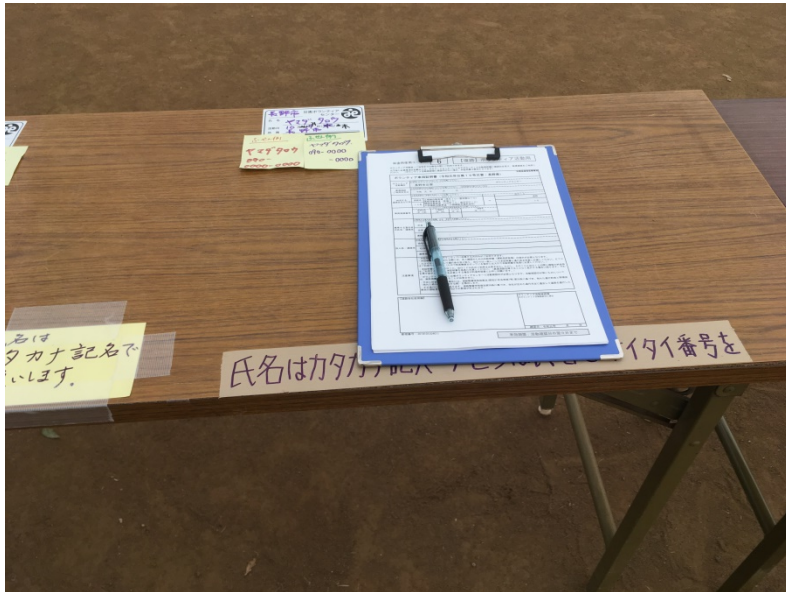
災害ボランティア(センター)活動の主な流れ

大きな活動の流れを把握します

被災地・被災者のニーズ把握、ボランティアのコーディネート、活動の安全管理などを通じて、被災地・被災者の生活再建支援を行うことが目的です。



長野市南部災害ボランティアセンターの様子







被災地の様子



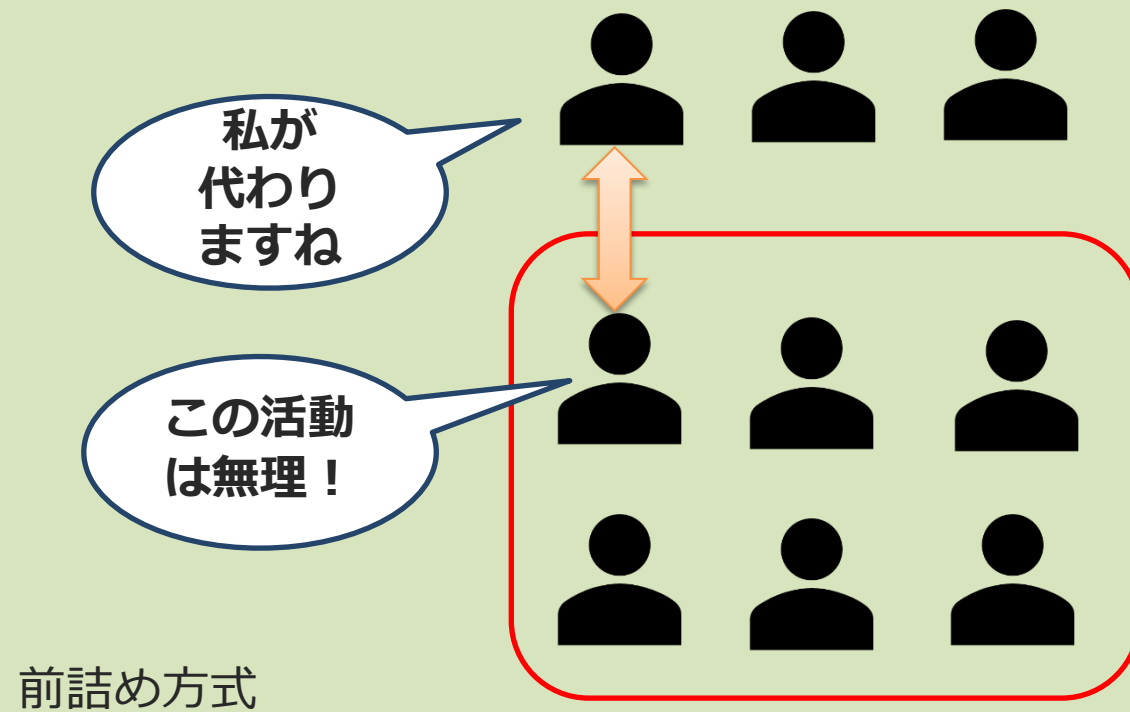
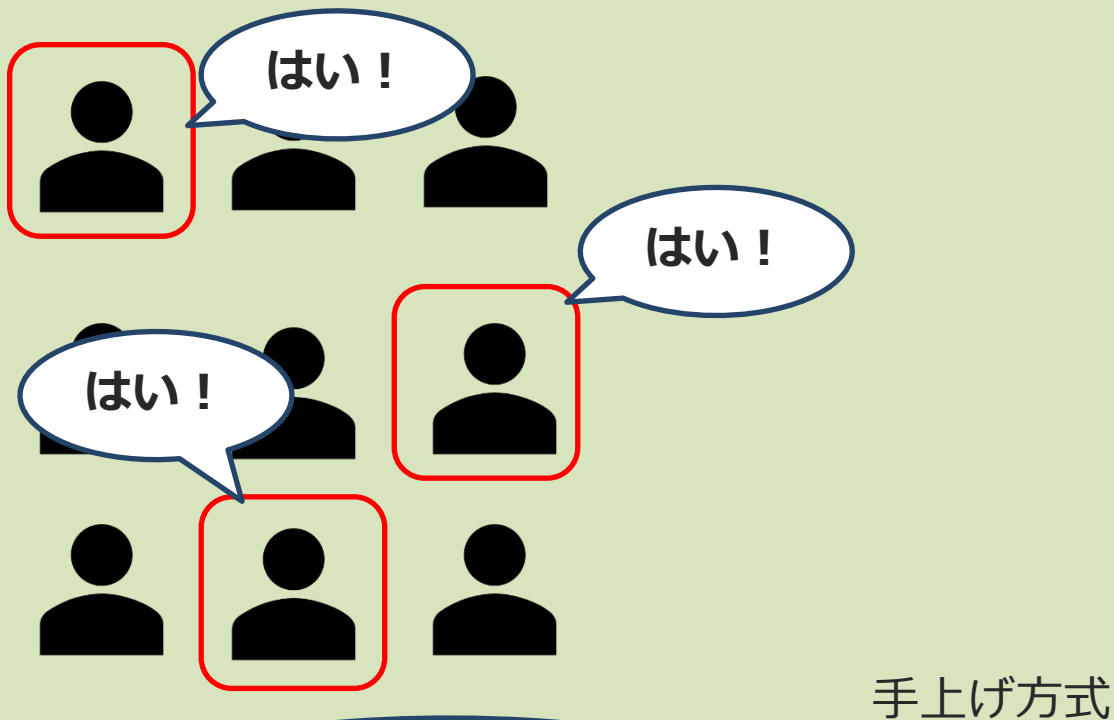




マッチングはニーズ総件数を伝え、団体やグループから優先的に

手上げ方式か、前詰め方式が分かりやすい

ボランティアが活動状況を判断するには「ニーズ件数」が分かりやすいので最初に伝える。活動選択は手上げ方式か前詰め方式等を、ボランティアやニーズ件数に応じて使い分けるのがポイント。



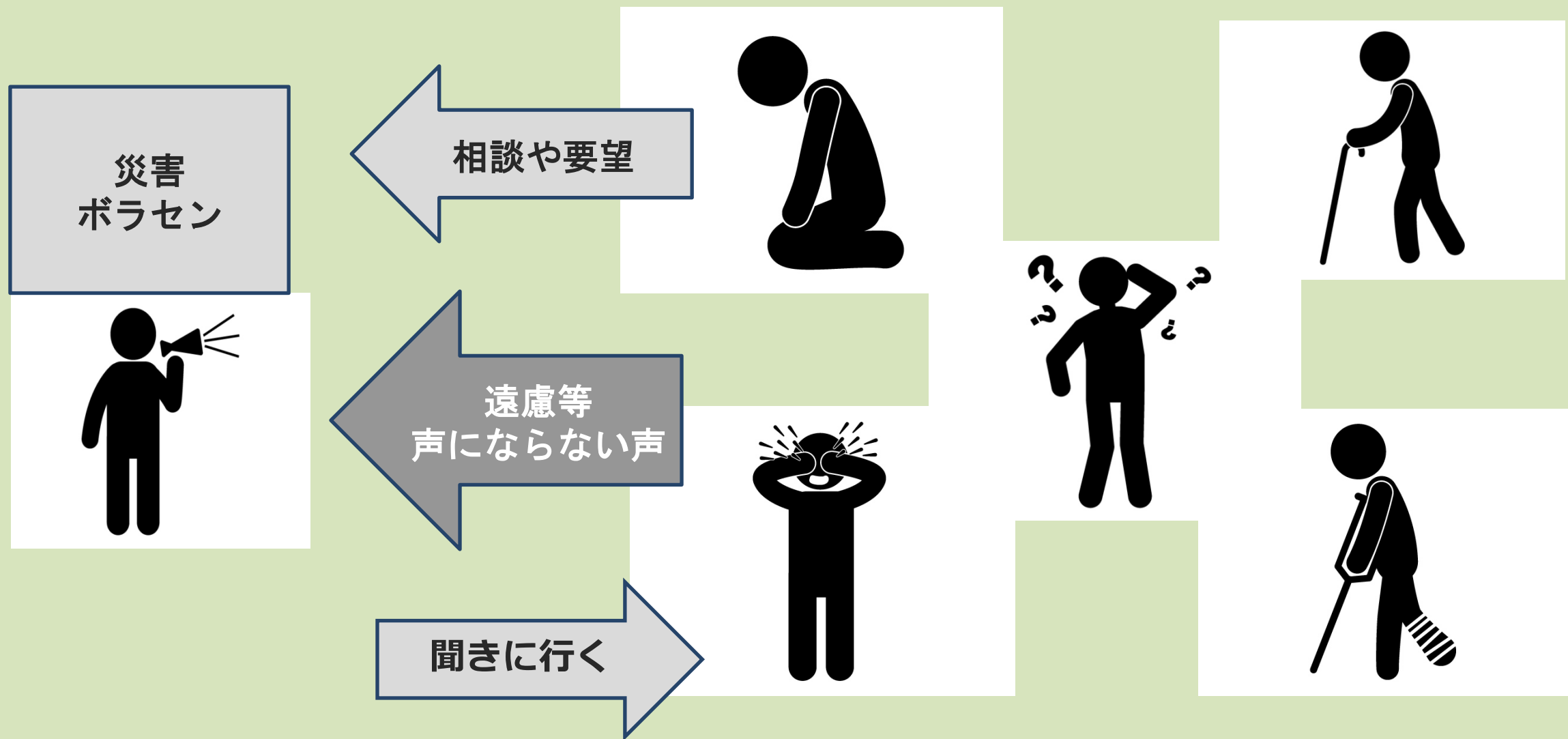
ご協力いただける方！



この活動は前6名の方！
リーダーは〇〇さん！



被災した住民のニーズ（課題・困り事）を把握する



支援を把握し、受け入れる・後押しする

ボランティア
グループ



企業・団体



NPO・NGO



個人の
ボランティア



支援の
呼びかけ

登録して
活動の紹介を受ける

情報把握
情報提供

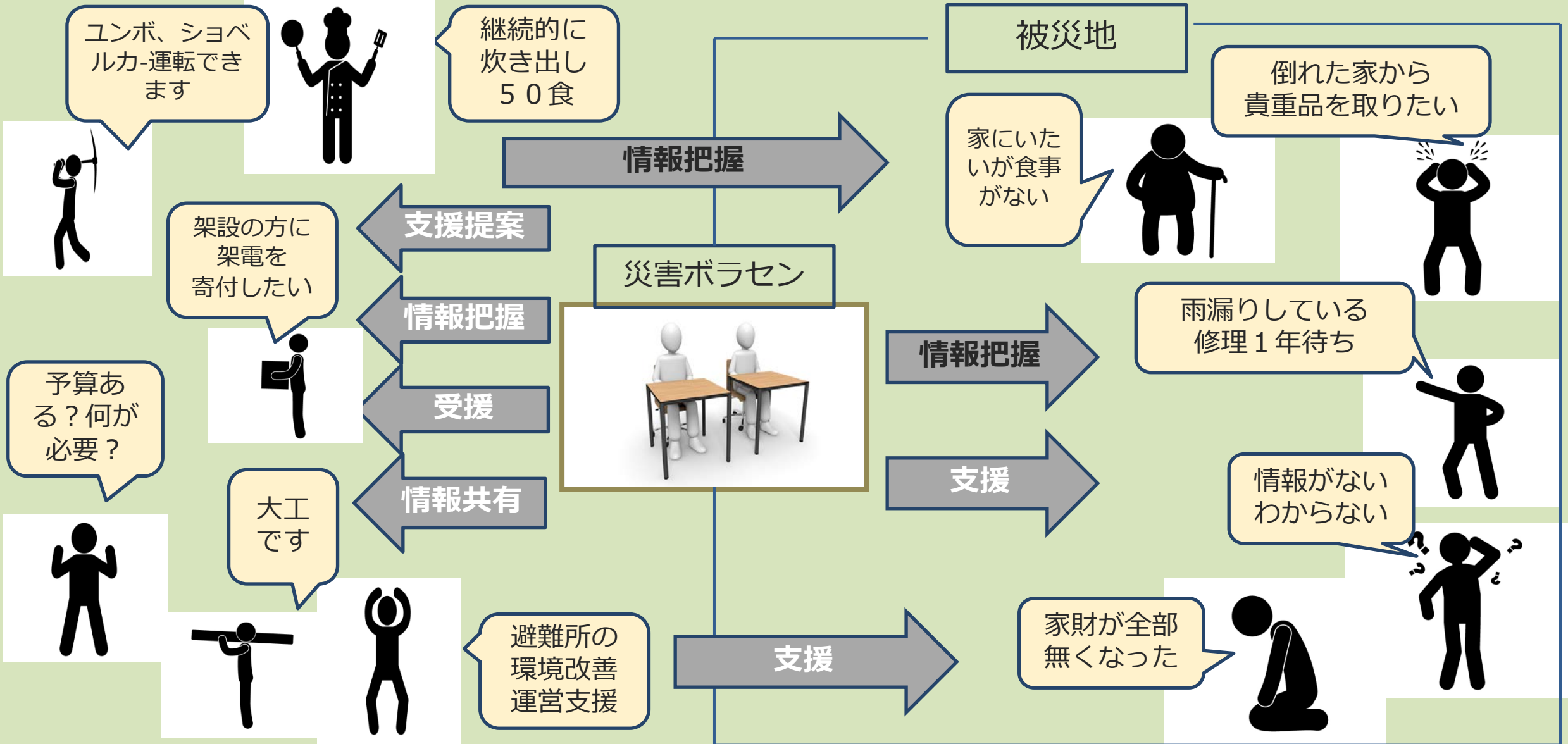
団体や企業としての独自の支援

災害
ボラセン

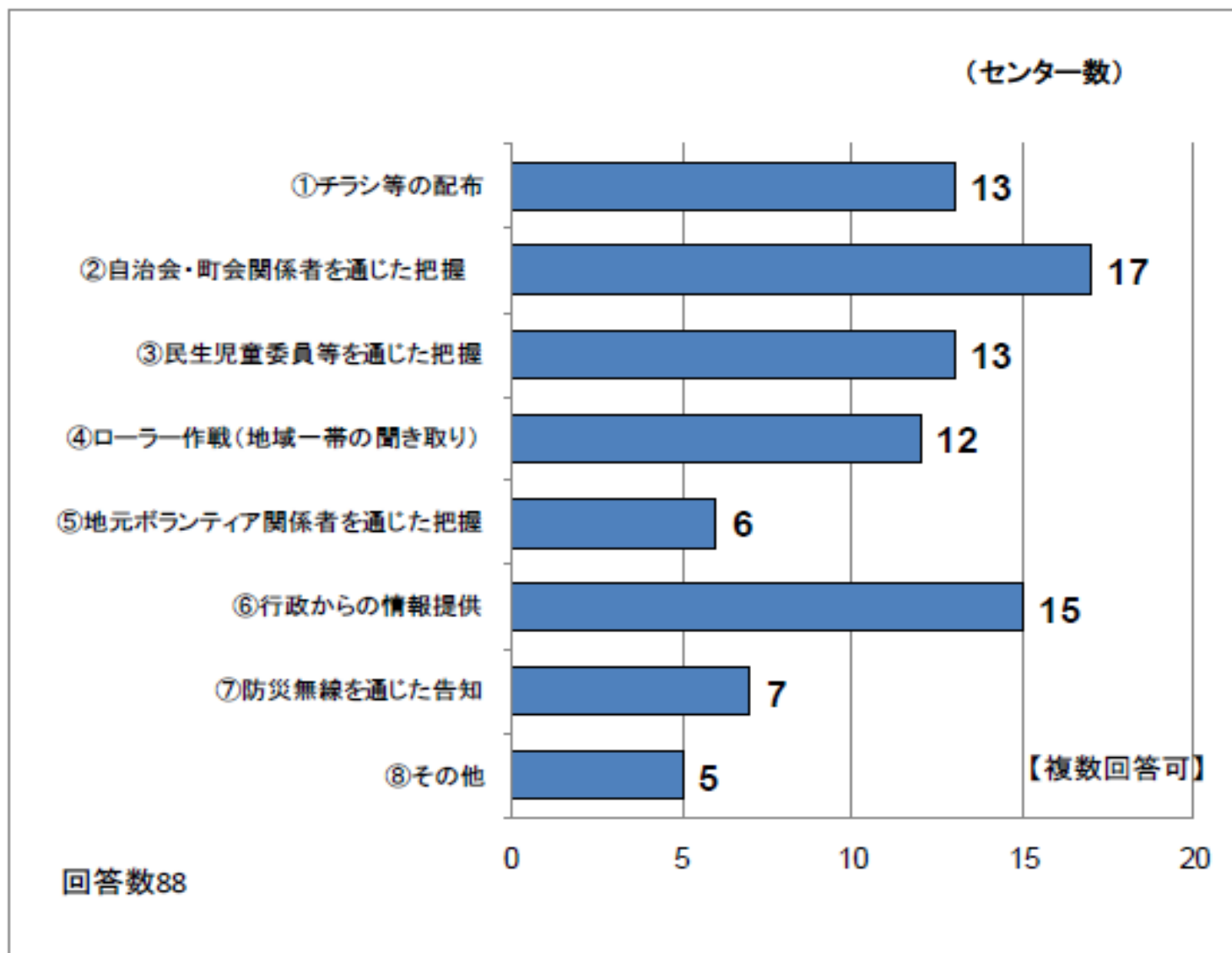


災害ボラ
センとし
ての支援

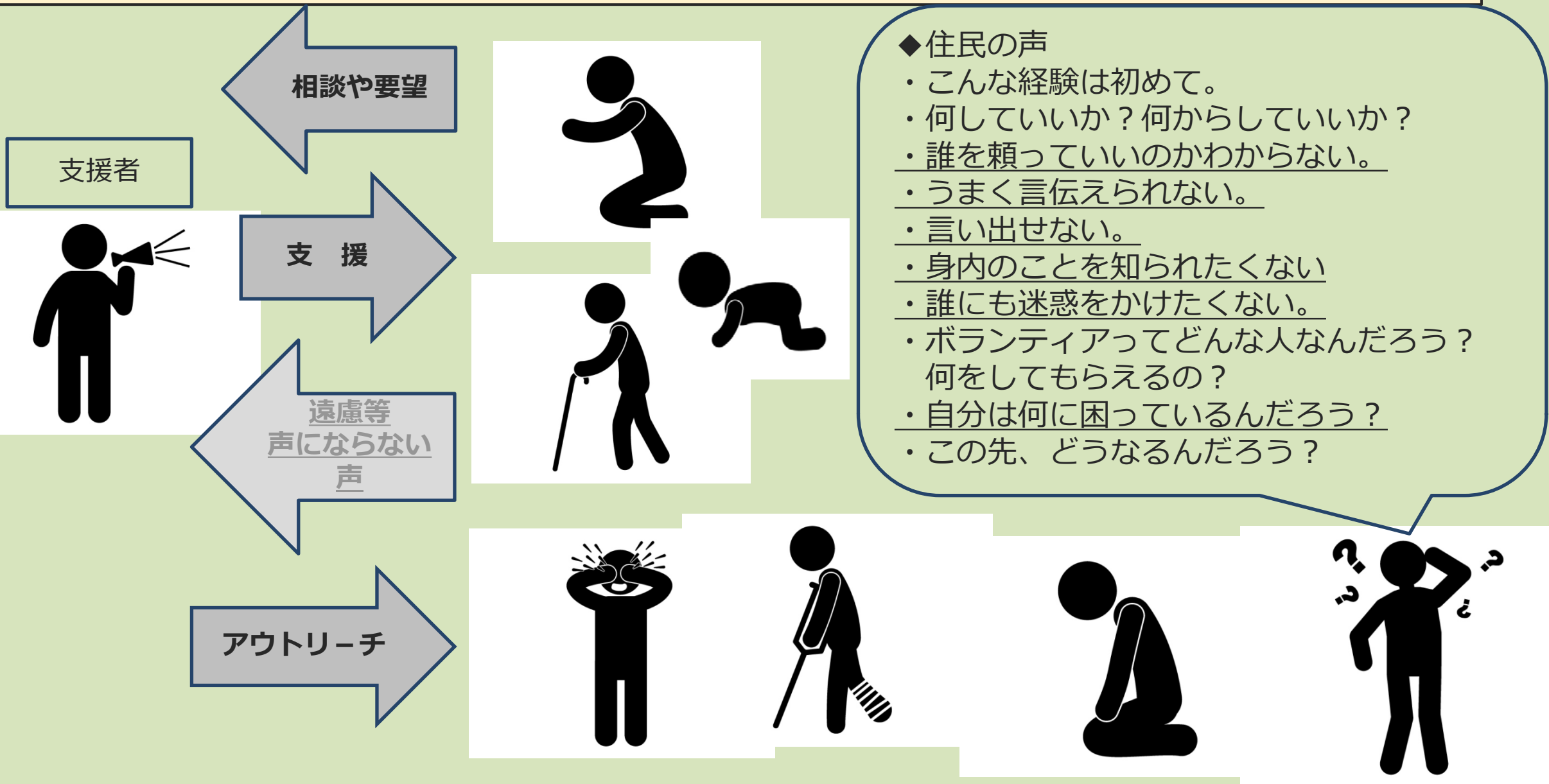
地域における支援の総合調整（案内）機能としての災害ボラセン



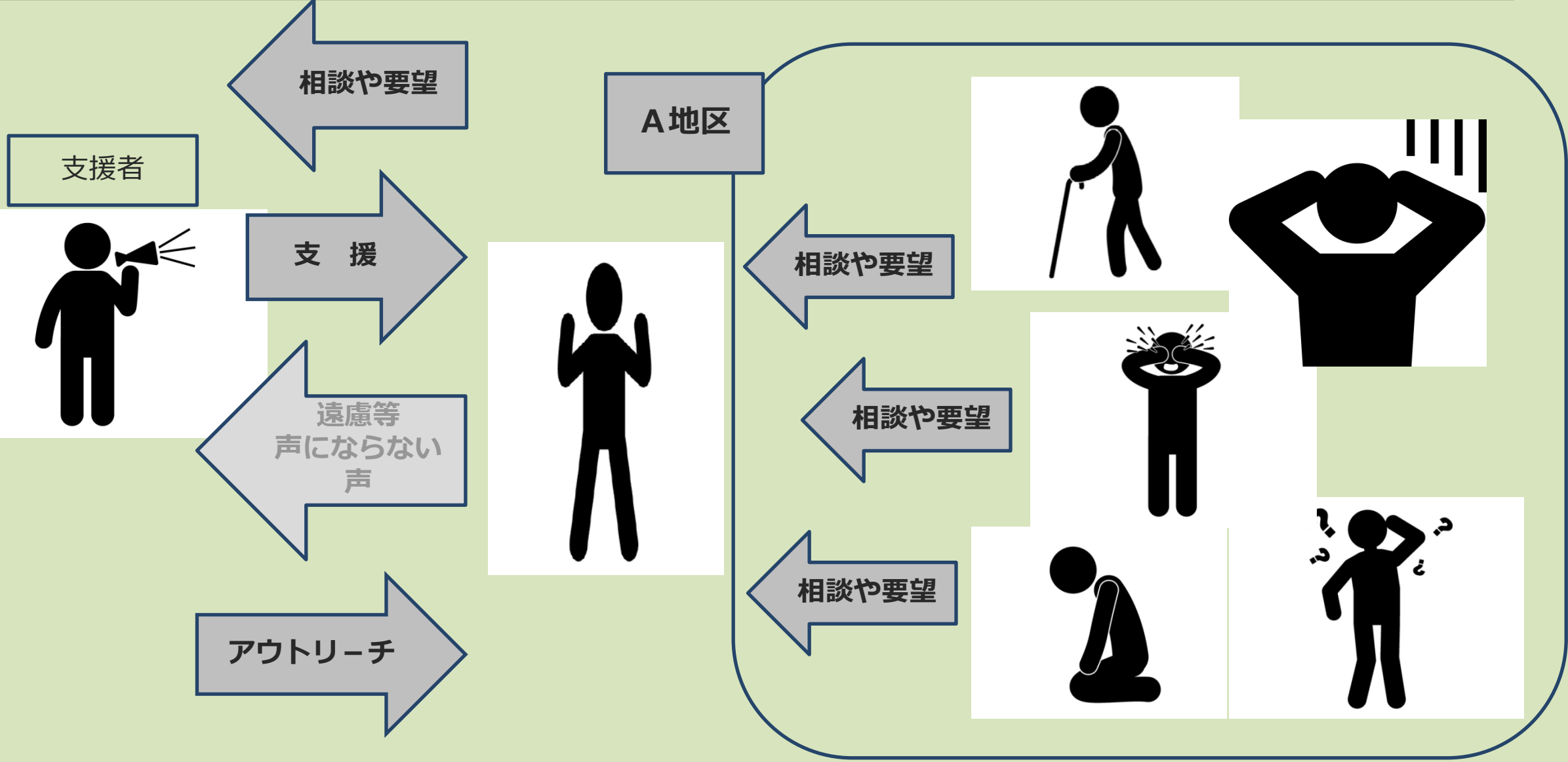
実際の被災時、被災者のニーズ（困りごと）の相談経路



支援に一番必要なのは「ニーズ（困りごと）把握」



地域のつながりを軸に展開される支援



活動支援には住民一人ひとりの背景がある



家の片づけ
手伝って！

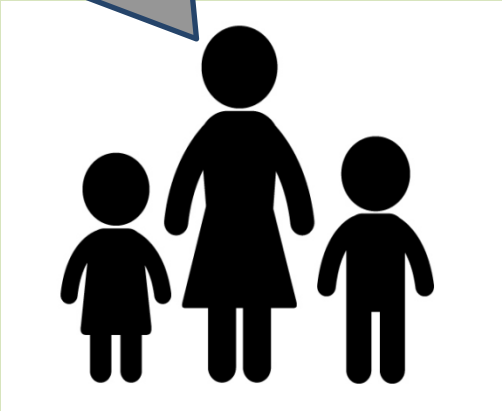


家の片づけ
手伝って！



家の片づけ
手伝って！

家の片づけ
手伝って！



【活動内容】
土砂やがれきの撤去
家屋の清掃・保全

活動支援には住民一人ひとりの背景がある



これ以上仕事を休めない

家の片づけ手伝って！

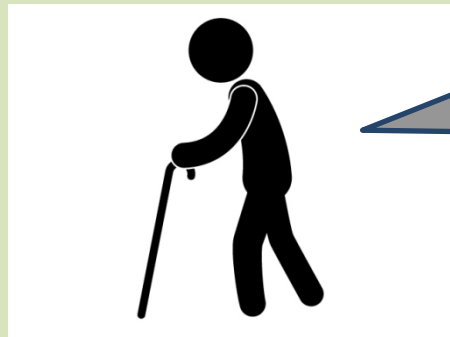


家の片づけ手伝って！



【活動内容】
土砂やがれきの撤去
家屋の清掃・保全

喘息の子どもがいて片付けに行けない



妻の位牌を探したい

家の片づけ手伝って！

家の片づけ手伝って！



避難所に入れない。被災しても家で過ごしたい……

「地域力」が「受援力」につながる！

地域が持つ、外部支援にない力

「地域を知り、つながりや信頼関係がある」「愛着がある」といった『地域に根ざした力』は大きな『受援力』と、復興支援につながる。

<<外部ボランティアの声>>
地図が読めない！
目標物や道が分からない！
方言、文化などが分からない！
信用してもらえない！



住民の力を借りて
地域と共に
復興支援に取り組む

案内役、紹介役を
地域住民が担う



【地域住民として】

災害ボランティアセンターや被災者支援の仕組みを把握したり

機能の一部を地域住民が担えば、

より自分たちに合った支援を受けることができる。

【災害ボランティアセンターとして】

災害ボランティアセンターの取組みが活性化すれば

その分地域住民が様々な支援を行うことができる。

災害時、多様な助け合いが機能するために

○ニーズ（困り事）の把握・発信が共有が何より肝心

→ニーズ収集把握のための多様な窓口や経路が必要。

「平時のつながり」＝「災害時のニーズ伝達経路」。関係者同士での情報共有が大切。

○安全管理（事故、ケガ、病気への予防対策）をする事で出来ることが広がる

→危険がある＝活動しない では課題解決につながらない。

どうすれば危険除去や緩和が出来るか？を考えて出来ることを増やしていく。

○ボランティア活動への理解と多様なボランティアとの協働

→支援の仕組みを知ることで、外部からの支援を受けやすくする。

ボランティアとの協働は指示・命令ではなく、同意・共感。

○地域で展開する支援の総合調整

→地域の助け合いや、様々な支援者を把握・調整し、活動を後押しする。

○平時からの準備と関係構築

→多様な支援の実現に向けては平時からの学習や訓練が大事で準備が必要。

また、それらを通じた信頼関係によって、支援の幅が広がる。

ご清聴、ありがとうございました。